

「香港中文大学サマースクール 中国語コース 参加報告書」

京都大学医学部3年 横井志保

①学習成果

今回の留学では欧米からの留学生が多く、大いに刺激になりました。私たち日本人は漢字に慣れ親しんでいるため、中国語を勉強する際には発音に重点を置いて勉強しますが、欧米の方は漢字から学ばなくてはならず、彼らの勉強に対する熱意と努力に敬服しました。彼らは本当に熱心に勉強しており、高度な内容の質問やスムーズな会話に、私も頑張ろうといつも鼓舞されました。

また、香港中文大学の歴史学科の生徒の方々と交流した際には、自分の専門や大学に深い敬愛の心を持っており、感動しました。ほぼ全員が自分の専門に誇りを持っている様子は、日本ではあまり見かけない光景で、羨ましく感じました。

②海外での経験

欧米からの留学生や、参加者の日本人にも留学経験がある人や帰国子女が多く、留学経験のない私はみんなの話す速くて流暢な英語に圧倒されており、最初は全く話せませんでした。しかし、欧米からの留学生の人たちが気さくに話しかけてくれたり、帰国子女の日本人の子から「速いのもあるけれど各国特有の訛りがあるから聞き取りにくいなと私も思うことがある」という話を聞いたりして、勇気を出して話すことができました。話して初めて、相手がどうして中国語を学んでいるのかということや、相手の国の文化などについて知ることができ、世界が広がりました。

また、授業で積極的に中国語を使うようになってからは他の留学生と中国語でも話すようになりました。きれいな発音も大切ですが、言葉はツールの一つであって、コミュニケーションの取り方は他にもあるということや、勇気を出して話すことの大切さを学びました。

③プログラム内容

授業の質は高く、すべて中国語で授業が進みました。毎回の授業で熱心に質問し、夜遅くまで予習と復習をする必要がありました。慣れるまでの最初の一週間はとても大変でしたが、二週目からは慣れ、先生の話している内容が大方理解できるようになり、生徒同士でも休み時間などに中国語で話すようになりました。

授業以外ではフィールドトリップや学校紹介が充実しており、初めに受けた学校紹介ではバスの乗り方や様々な施設について詳しく知ることができ、そのあとの生活が便利で快適なものになりました。

フィールドトリップでは香港、澳門、深
考え方などについて多くのことを語り合えてとても有意義でした。

④進路への影響

現地の生徒は海外志向で、インターンシップを海外で行ったり、留学に行ったりすることは珍しいことではないようでした。私と同じ看護学を専攻している香港人の友人はマレーシアの病院でインターンシップを経験したと話しており、インターンシップは国内で行うものだと思っていた私は大変驚きました。先生にも色々とお話を聞いていただき、たくさんの出会いを経験する中で、私は海外で就職活動をしようと思うようになりました。今まではただ、どこかで活かせたらいいなと思っていた中国語でしたが、今回の留学で中国語を使うことの楽しさや他国の様々な文化の違いに触れ、国内ではなく海外でもっと多くのことを知りたいと思うようになりました。専門との両立は大変ですが、これからも中国語を学び続け、将来中国語を使って仕事をしたいです。